

令和 2 年度業務実績に関する評価書（事務局案）に対する意見

全体評価についての意見（中村委員長）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価書に以下の文面を追加 令和 2 年度から令和 7 年度までの第 2 期中期計画の初年度業務実績の評価に当たって、全体に関わる特殊事情として、令和元年度終盤から始まった新型コロナウイルス感染症のまん延がもたらしているコロナ禍の様態を考慮する必要がある。 長岡造形大学としては、その対応に全学をあげて取り組むために、危機管理対策本部を設置し、国県市からの公的な要請そして社会や産業界の動向を踏まえながら、学生、教職員の感染防止・抑制を最優先と位置づけ、教育、研究、地域貢献そして業務運営等のすべての領域において、従来と異なる方策を含めて、柔軟かつ大胆に業務展開されたことに留意した評価を行ったところである。 ・ (3) 令和 2 年度の特筆すべき取組 【第 1 教育に関する目標】に以下の文を追加 「・教育課程への取組 コロナ禍による時代の変化を捉え、全学的プロジェクトチームを発足し、教育研究組織の見直し方針を定め、現行の 4 学科から 3 学科への再編を打ち出した」
大項目別評価への意見（中村委員長）
第 1 教育に関する目標 (2) 概況 ○教育の成果、内容に関する目標を達成するための措置に以下の文を追加。 「コロナ禍による・・・基本方針を策定した」に「現行の 4 学科から 3 学科への再編の方向性を打ち出した」
評価書全体への意見（草間委員）
大学院志望、大学志望の学生が増えたということは大変嬉しいことと思っております。造形大学だからこそその得意な分野を生かしてもっと志願者が増えるといいですね。 質問は、資料 1-4 に記載。
評価書全体への意見（並木委員）
コロナ禍でまだまだ厳しい状況が続くと思いますが、今後も学生の立場に寄り添った対応をお願いいたします。 質問は、資料 1-4 に記載。
評価書全体への意見（水澤委員、楨委員）
意見・質問なし。